〔活動報告〕

マレーシアの看護実践・教育活動の視察報告
～第3回　マレーシアにおける看護学教育～

山本　則子[1)]　前原　邦江[1)]　Rashidah Shuib[2)]　杉下　知子[1)]

はじめに

マレーシアは，1957年にイギリスから独立したという歴史的背景から，イギリスの影響を強く受け，看護実践・看護学教育もその例外ではない[1)]．今回私たちは，日本学術振興会による「東京大学とマレーシアとの拠点校方式による学術交流」の一環として，マレーシアの看護実践および看護学教育と日本の看護学教育の交流を目的に，いくつかの施設を視察する機会に恵まれた．まず，マレーシアのクランタン州の州都コタバルにある，保健省管轄下のクバン・クリアン看護学校，マレーシア理科大学（Universiti Sains Malaysia；USM）での看護ディプロマプログラム，州都クアラルンプールにあるマラヤ大学（Universiti Malaya；UM）でのディプロマ，ディプロマ後，及び学士プログラムを見学した．また，助産婦学校を訪問することは出来なかったが，助産婦と看護助手を統合した地域看護婦を養成する，コタバル郊外パシマスの地域看護学校（community nursing school）を訪問した．看護実践の場としては，国立病院・大学病院のほか，地域の保健センター・地域クリニックにも訪れることができた．このうち，保健センターにおける地域母子保健活動の概要については「マレーシアの看護実践・教育活動の視察報告～第1回地域母子保健活動について～，家族看護学研究，Vol. 5，No. 1，41―44，1999.」で，また保健センターの下部施設である地域クリニックと地域看護婦については「マレーシアの看護実践・教育活動の視察報告～第2回地域クリニックと地域看護婦の活動～，家族看護学研究，Vol. 5，No. 2，146～149，2000.」で紹介した．そこで本稿では，マレーシアにおける看護学教育の現状について報告する．

写真1．コタバルの街

マレーシアにおける看護学教育の変化

マレーシアにおける看護学教育は従来，保健省（Ministry of Health）の管轄する看護学校（ディプロマプログラム）での3年制の教育（11年間の初等・中等教育後）が主流であった．この教育システムは，近年大きな変化を迎えている．マレーシアは1996年現在で総人口2110万人である[1)]が，医療・看護職の数が少なく，人材育成が急務となっている．この現状から，看護学教育には大きく2つの変化が生じた．

一つは地域の母子保健活動の担い手としての看護職の量的拡大の取り組みである．マレーシアの周産期ケアには，地域の保健センター・地域クリニックにおける看護職の活動が重要な位置を占めているが，この人材が慢性的に不足していた．この領域での

[1)]東京大学大学院医学系研究科・医学部家族看護学教室
[2)]マレーシア理科大学医学部医学教育ユニット

看護職は，保健婦(public health nurse)・看護婦(staff nurse)の他，看護助手・助産婦(assistant nurse, midwife)が活躍していた．このうち，看護婦は3年間のディプロマ教育を受けた者，保健婦は3年間の看護学基礎教育の後1年間の教育を受けた者であり，一方,看護助手・助産婦は,ディプロマの看護学教育を受けずに看護の周辺手技や周産期のケアに必要な手技のみがそれぞれの学校で教育されており，看護助手が医療機関で,助産婦が主に地域において,保健婦・看護婦のもとで活動していた．

マレーシア保健省は近年，この看護助手・助産婦の制度を撤廃し,9年間の初等・中等教育後に2年6ヶ月の教育を提供して，地域看護婦（community nurse）という新しい職種を作った．これは従来の看護助手と助産婦の資格を統合した位置づけとなっており，多くの看護助手・助産婦の学校が地域看護学校（community nursing school）として改編された（5巻2号参照）．更に，助産婦に関しては，ディプロマ後プログラム（post diploma program ; advanced diploma program）として，ディプロマの看護学教育の後に特別の教育を受けた者を助産婦として位置づけることになった.なお,ディプロマ後プログラムは看護の基礎教育を受け，何年かの現場経験を積んだ後に更に知識を深めるための教育であり，保健婦・助産婦の教育のほか,看護管理・看護学教育の教育,クリティカルケア・がん看護などの臨床専門領域の教育もある．

大学におけるディプロマプログラム

もう一つの看護学教育における変化は大学教育化である．昨今全世界に見られる看護学教育の大学教育への移行の流れの中で,マレーシアでも,それまで保健省のみが管轄してきた看護学教育が，教育省(Ministry of Education)の管轄のもとで3年制のディプロマプログラムとしても提供されるようになった．ここまでの流れは日本の専門学校での看護教育から短大での教育への流れに類似している．私たちが訪問したマレーシア理科大学(USM)は，大学の中で看護のディプロマプログラムを提供する数少ない教育機関のひとつであった．

USMにおける看護教育は，教育領域としては日本の短大とそれほど違わない．隣に存在した保健省管轄下のクバン・クリアン看護学校（日本の専門学校に対応)の教育内容と比較すると,自己学習と事例に基づく学習（Problem Based Learning）に力を入れている様子が，従来の講義型の教育を中心としていた看護学校と異なっていた．もうひとつの大きな違いは，教育省管轄の大学教育を受けた学生は看護婦の国家試験を免除されることである．これは大学における看護教育が国家試験を必要としない十分なものであるという前提に基づいており，そのため卒業試験が国家試験以上に厳しい．私たちが尋ねていた時期は卒業試験を作成する時期にあたっていた．卒業試験は筆記(multiple choice)と実技から成っており，筆記試験の検討委員会に参加させていただいたが，教官から提出された設問をひとつひとつ，学生から出される回答を想定して徹底的に検討する様子が印象的であった．実技は看護に必要な基本技術を教官の前でおこなって見せるもので，これには教育省から担当官が派遣されて陪席するということであった．

私たちが会ったUSMの多くの学生は,新しく出来た大学での看護教育を受けていることに誇りを持っている様子が伺えた．多くの学生は日本の看護に興味を持ち，私たちの日本の看護に関する説明にも熱心に耳を傾けていた．いつか日本に行ってみたいと言ってくれる学生もいた．

学士教育

更に,大学教育の中でも,大学卒業資格のないディプロマプログラムではなく，大学卒業資格の取れる学士プログラム(degree program)での看護学教育も試みられはじめた．マレーシアの大学数は日本に比べて人口比で見ても格段に少ないが，首都クアラル

表1． マラヤ大学における看護学教育(degree program)カリキュラム

1学年		
社会心理学	45時間	実習を含む
保健教育	45時間	実習を含む
看護学Ⅰ	375時間	
看護における法律		
マレーシアの保健システム		
今日のマレーシアにおける看護実践と課題		
看護における人間関係		
患者カウンセリングと家族のケア		
2学年		
基礎医科学	90時間	
看護学Ⅱ	90時間	実習を含む
看護の概念		
看護過程		
発達心理学	45時間	
教育心理学	45時間	
社会人類学	45時間	
管理学原理	45時間	
研究，統計処理	45時間	
3学年		
コースに分かれて実習		
(看護教育)	看護学校で最低3カ月間の教育実習	
(看護管理)	医療機関で最低3カ月間の管理実習	
看護研究	90時間	
カリキュラム開発	45時間	
看護管理	45時間	
看護学Ⅲ	90時間	実習を含む
看護管理者の役割		
臨床教育		

写真2．クバン・クリアン看護学校の先生方と筆者ら

ンプールにあるマラヤ大学が1993年に国内初の看護の学士プログラムを開始し，ついで昨年からサラワク州にある大学も看護の学士プログラムを始めている．

マラヤ大学の学士プログラムは日本のものと異なり，既にディプロマプログラムで看護の基礎教育を終え，最低でも3年の臨床経験を経た上で入学が許

写真3．USMでの演習風景－Problem Based Learning

写真4．国立コタバル病院

可される（制度上は日本の編入制度に類似している）．このプログラムはそれまでのディプロマ後プログラムを大学教育にとりこんだような内容であり，これまでは看護教員及び看護管理者の教育が主眼であった(表1参照)．初期の学生は大学入学以前にディプロマ後教育を受け，職歴も相当にあることを加味して学士プログラムの2年次あるいは3年次への編入を許されることが多かったが，最近は3年の臨床経験のみで1年次に編入する学生もでてきたということである．また，今年度からは臨床専門領域(母子保健・クリティカルケア・がん看護）のコースも開始することになっている．

イギリスの影響を強く受けているマレーシアでは教育体系もイギリス式の発想を踏襲しており，その意味では，特に臨床看護学教育においては，学士レベルと言っても日米の修士課程あるいはそれ以上に対

応する内容が含まれている印象を受けた．学士プログラム臨床教育の充実ぶりは，日本における看護学の大学教育プログラムを検討する上で学ぶべき要素を多く持つように思われる．ただし，マラヤ大学はマレーシアではほとんど唯一の，看護の学士プログラムを提供している大学であり，その教育内容が高度であることは社会における大学の役割から考えて必然的であろう．今年度から開始されたサラワク州の大学での看護の学士プログラムは，それまでディプロマプログラムで行われてきた看護の基礎教育を大学教育で行う初のプログラムであり，マラヤ大学とは異なる性質を持っているとのことであった．

おわりに

今回の視察では，マレーシアの看護学教育と実践について，地域看護婦の活動から大学教育までを広く網羅して理解することが出来た．実習・演習の充実ぶりからは，看護学があくまで実践の学問であることを再認識し，地域において看護婦が高度の意思決定を任されている様子からは，実践を裏付ける理論の教育がディプロマレベルあるいはそれ以下で高度に行われていることが強い印象として残った．これらのことは，今後日本における看護学教育でも大いに参考になる視点を含んでいる．

また今回は，病院やクリニックでの見学を通じて，マレーシアの家族とその看護が日本との共通点を多く持つことを認識できた．何事にも個の自立と独自性を重んじる欧米の社会とは異なるアジアの社会での看護は，その社会に応じた独自の知識体系を持ってしかるべきであろう．アジアのナースが集まって「アジアの看護」の知識を蓄積する試みが，これからの私たちの看護実践に大きく役立つことを予感したマレーシア訪問であった．

（今回の訪問は，日本学術振興会による「東京大学とマレーシアとの拠点校方式による学術交流」の援助を受けた．）

文　献

1）国際看護交流協会：Country Paper Malaysia：Family Health Promotion and Nursing（presented at The 24 th Senior Nurse International Workshop Japan）1998